

【漁況】 【マアジ】

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30トン台で推移しました。平成11年には大きく減少し21万1千トンとなりましたが、その後ほぼ横ばいで、平成17年は19万4千トンでした。

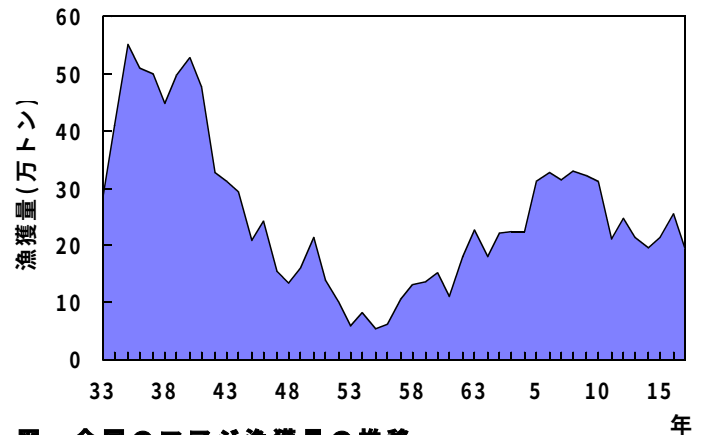


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成18年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、長島沖～串木野沖、縄瀬に漁場が形成されました。

薩南海域では、開聞沖、内之浦沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、アジ仔・豆アジ(0歳魚・平成18年生まれ)及び小・中アジ(1歳魚・平成17年生まれ)主体に598トンの水揚げで、前年の207%及び平年の100%でした。

3. 平成19年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は、アジ仔・豆アジ（1歳魚・平成18年生まれ）及びマアジ小・中（2歳魚：平成17年生まれ）でしょう。

来遊量は、前年・平年を下回り低調に推移するでしょう。

（根拠）

漁獲の主体は、近年の漁獲パターンや現在の漁況経過から予測しました。

マアジ1歳魚は、現在までのまき網の漁況経過から、低調であった前年をやや上回り、平年を下回ると考えられます。

マアジ2歳魚は、現在までのまき網の漁況経過から、前年・平年を下回ると考えられます。総合的にみて、前年・平年を下回ると考えられます。

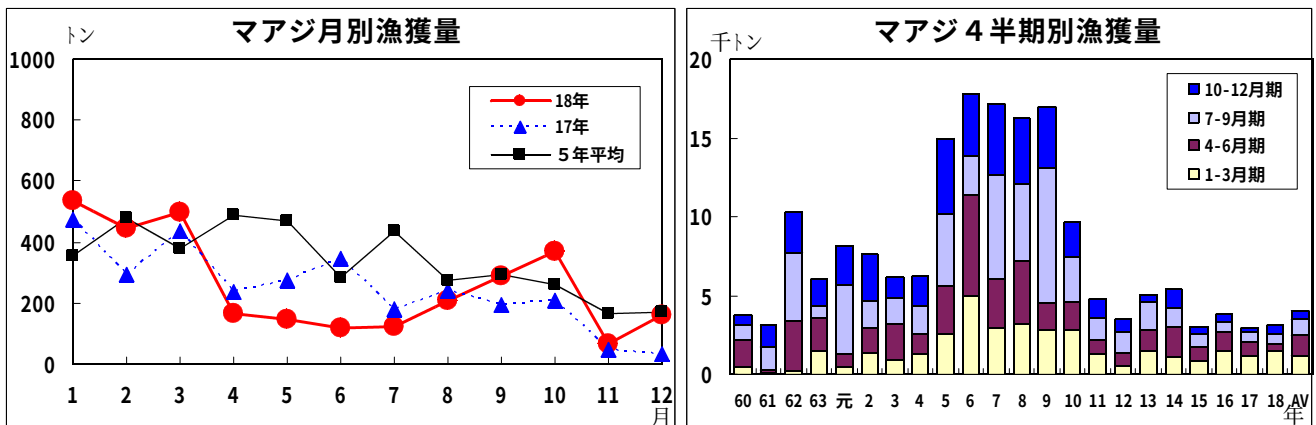


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

※ 平年値は過去5年（平成13～17年）の平均値、平成18年12月20日までの水揚げ量を使用。

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンにピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。平成9年には84万9千トンまで増加しましたが、平成14年は27万9千トンに減少した後、増加し平成17年は60万4千トンでした。

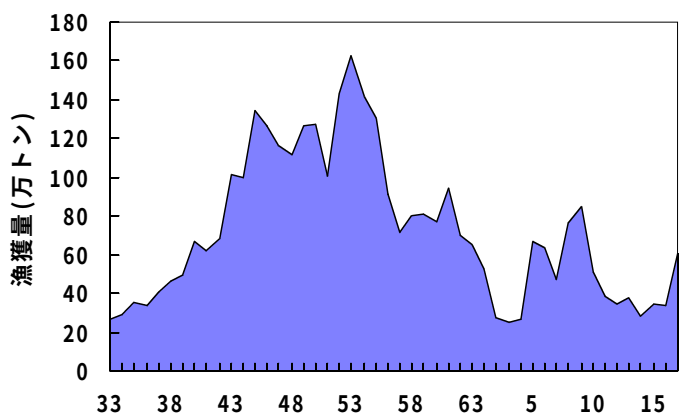


図 全国のサバ類漁獲量の推移

2. 平成18年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

薩南海域では、湯瀬、宇治群島、屋久島南、島間沖が主漁場となった。

北薩海域では、阿久根沖～串木野沖、甑東、縄瀬沖に漁場が形成されました。

4港計では、ゴマサバ中小・中(2歳魚・1歳魚：平成16年生まれ・平成17年生まれ)及びゴマサバ豆・小(0歳魚・平成18年生まれ)主体に6,535トンの水揚げで、前年の77%及び平年の227%でした。

3. 平成19年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ中小・中(3魚・2歳魚：平成16年生まれ・平成17年生まれ)及びゴマサバ豆・小(1歳魚・平成18年生まれ)となるでしょう。

来遊量は前年・平年を上回り、好調に推移するでしょう。

(根 拠)

漁獲の主体は、近年の漁獲パターンや現在の漁況経過から予測しました。

ゴマサバ3歳魚は、依然として来遊量が多く、前年・平年を大きく上回ると考えられます。

ゴマサバ2歳魚は、好調であった前年を下回るものの、平年を上回ると考えられます。

ゴマサバ1歳魚は、好調であった前年を下回るものの、平年を上回ると考えられます。

総合的にみて、前年・平年を上回ると考えられます。

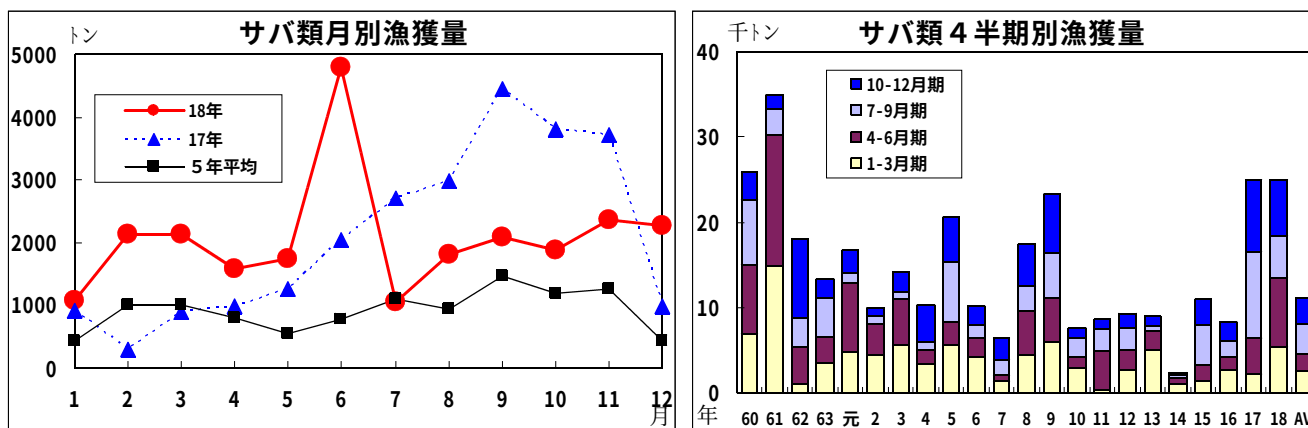


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年(平成13～17年)の平均値、平成18年12月20日までの水揚げ量を使用。

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トン、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年は35万1千トンとやや増加したものの、その後減少し平成17年は2万8千トンでした。

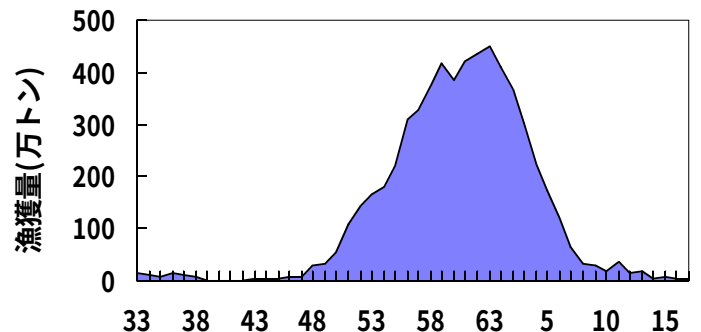


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

年

2. 平成18年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

鹿児島県4港のまき網で28.5トン(平年比23,783%)で前年・平年とも大きく上回り、5年ぶりのまとまった水揚げとなりました。

3. 平成19年1～3月期の見とおし

まとまった来遊は期待できず、水揚げがあっても散発的なものにとどまるでしょう。

(根 拠)

マイワシ資源は全国的に依然として低水準にあり、資源回復の兆候がないことから今期のまとまった漁獲は見込めないと思われます。

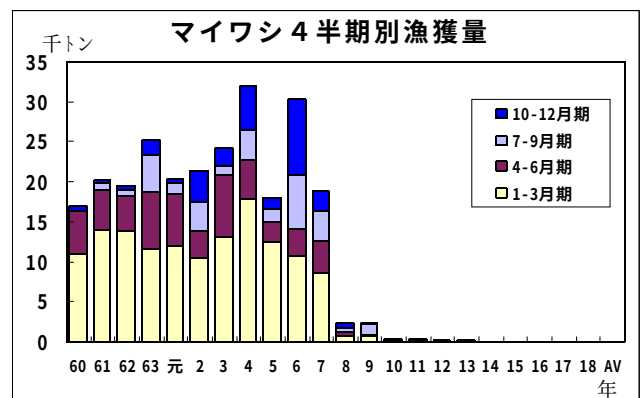
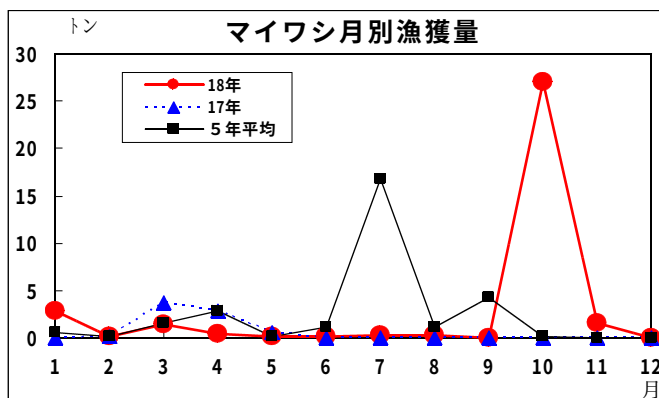


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成13～17年）の平均値，平成18年12月20日までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後、増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。近年では再び減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成17年は3万5千トン

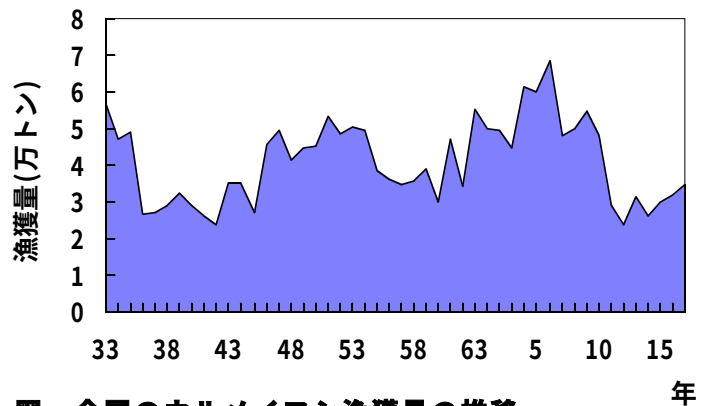


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 平成18年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

鹿児島県4港のまき網で453.9トン(前年比700%，年平均比131%)と、前年・年平均を大きく上回りました。北薩海域の棒受網では9.0トン(前年比40%，年平均比134%)と、低調だった前年を大きく下回ったものの、年平均を大きく上回りました。

8月に主要な漁場である北薩海域の棒受網で今年生まれの小・中羽銘柄が比較的多く漁獲され、9月以降は当歳魚の中羽銘柄を漁獲の主体とするまき網でも好調な水揚げが続いています。

3. 平成19年1～3月期の見とおし

北薩海域・薩南海域とも中～大羽銘柄(1歳魚・平成18年生まれ)が漁獲の主体となり、来遊量は好調だった前年を下回るものの、年平均を上回るでしょう。

(根拠)

北薩海域では今期の漁獲の主体となる1歳魚(平成18年生まれ)のまき網による水揚げが好調に推移しており、来遊水準は高いと考えられます。薩南海域では水揚げが年平均並みに推移しており、平成18年3月以降のような来遊は見込めないと考えられます。総合的にみて、来遊量は好調だった前年を下回るものの、年平均並みか年平均を上回るものと思われます。

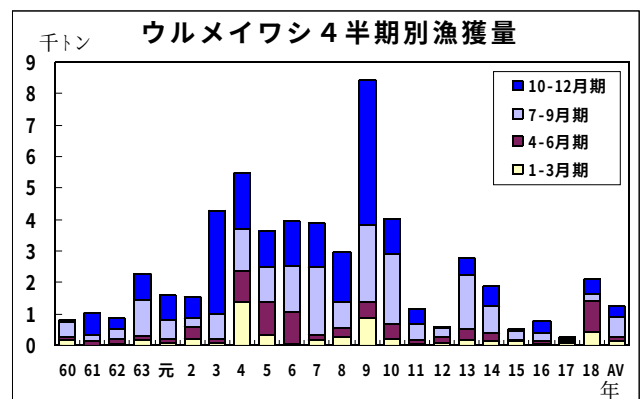
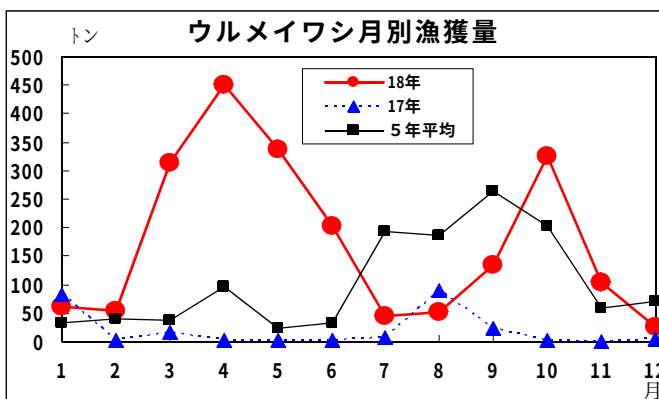


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※ 年値は過去5年（平成13～16年）の平均値，平成18年12月20日までの水揚げ量を使用。

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し、平成13年は30万トン、平成14年は44万トンでした。平成15年は過去最高の51万7千トンとなりましたが、平成17年は再び大きく減少し、34万7千トンとなりました。

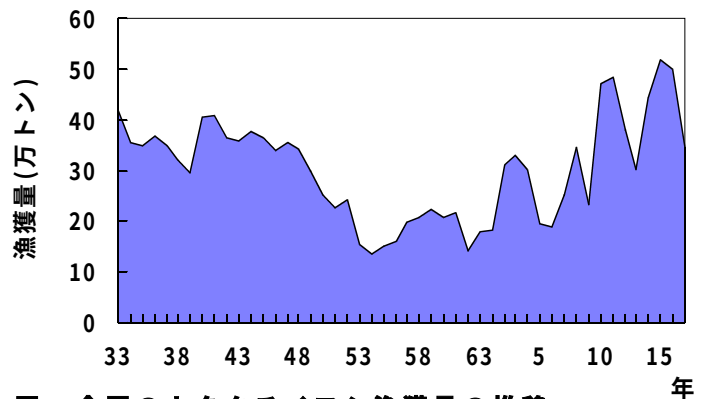


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 平成18年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）のまき網及び棒受網】

鹿児島県4港のまき網で69.9トン（前年比318％、平年比631％）の水揚げで、前年・平年とも大きく上回りました。北薩海域の棒受網では125.6トン（前年比67％、平年比242％）の水揚げで、前年を下回ったものの平年を上回りました。

まき網では小～中羽銘柄（0歳魚・平成18年生まれ）を主体に好調な水揚げがあり、北薩海域の棒受網でも小～中羽銘柄（0歳魚・平成18年生まれ）を主体に好調だった前年を下回ったものの、比較的好調に推移しています。

3. 平成19年1～3月期の見とおし

中～大羽銘柄（1歳魚・平成18年生まれ）が漁獲の主体で、前年を下回り、平年並みとなるでしょう。

（根 拠）

カタクチイワシの産卵親魚（1歳以上）の資源量が前年より少ないことから、来遊水準はあまり高くないと考えられます。

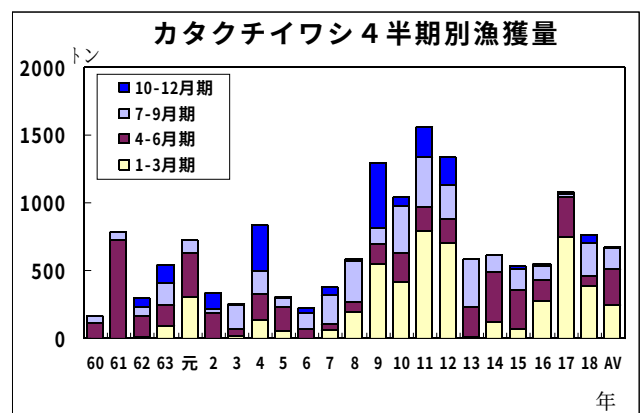
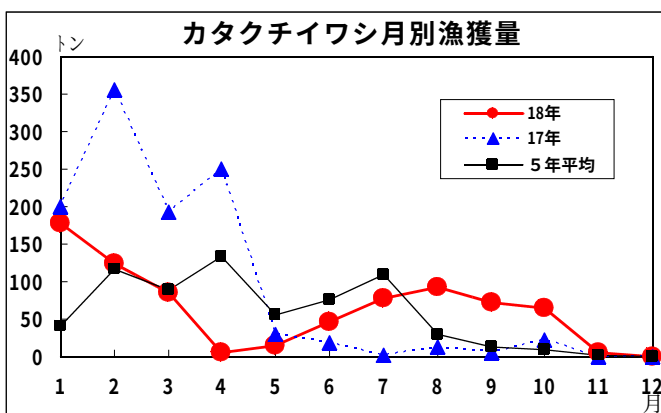


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成13～17年）の平均値，平成18年12月20日までの水揚げ量を使用。

【その他の魚種】

〈ムロアジ類（4港計）〉

1. 経年変化及び平成18年10～12月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに減少傾向を示し、平成12年は、昭和58年以降最低の1,819トンとなりました。平成13年以降はやや増加し、平成14年には4,418トンとなりましたが、その後は減少し平成17年は1,675トンとなりました。

平成18年10～12月は、薩南海域でクサヤモロ（銀ムロ・青ムロ）主体の漁獲があり、期全体では841トンの水揚げで、前年の84%及び平年の52%でした。

2. 平成19年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は、クサヤモロ（銀ムロ・青ムロ）で、薩南海域に漁場が形成されるでしょう。来遊量は、低調であった前年を上回り、平年を下回るでしょう。

〈オアカムロ（4港計）〉

1. 経年変化及び平成18年10～12月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成10年は3,413トンでした。その後、減少傾向となり、平成17年は1,165トンとなりました。

平成18年10～12月は、主に薩南海域で漁獲があり、期全体では155トンの水揚げで前年の26%及び平年の38%でした。

2. 平成19年1～3月期の見とおし

来遊量は、前年・平年を下回るでしょう。

〈マルアジ（アオアジ）（4港計）〉

1. 経年変化及び平成18年10～12月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しましたが、平成7年には1,430トンに増加しましたが、再び減少し平成11年は639トンでした。平成12年以降は増加傾向を示し、平成15年は3,150トンとなりました。平成16年以降は大きく減少し、平成17年は307トンでした。

平成18年10～12月は、主に北西薩海域で漁獲があり、期全体では37トンの水揚げで、前年の161%及び平年の6%でした。

2. 平成19年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は、マルアジ中・大（2歳以上）で、マルアジ豆（1歳魚・平成18年生まれ）も漁獲されるでしょう。

来遊量は低調であった前年を上回り、平年を大きく下回るでしょう。

（根 拠）

漁獲の主体は、近年の漁獲パターンや現在の漁況経過から予測しました。

マルアジ中・大（2歳以上）の来遊量は、低調である前年を上回り、平年を大きく下回ると考えられます。

マルアジ豆（1歳魚）は、12月までの漁況経過から、来遊量は低調であった前年並みで平年を大きく下回ると考えられます。

総合的にみて低調であった前年を上回り、平年を大きく下回ると考えられる。

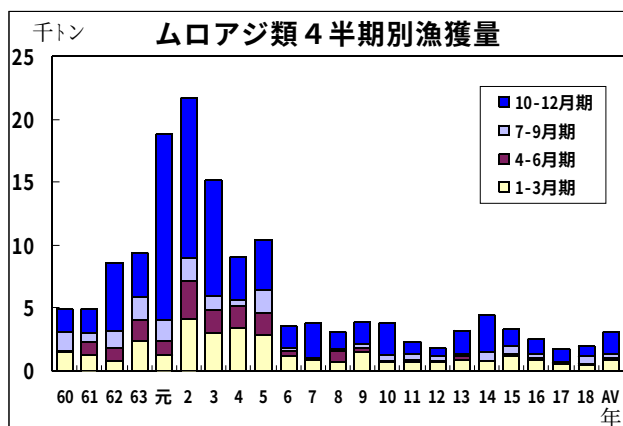
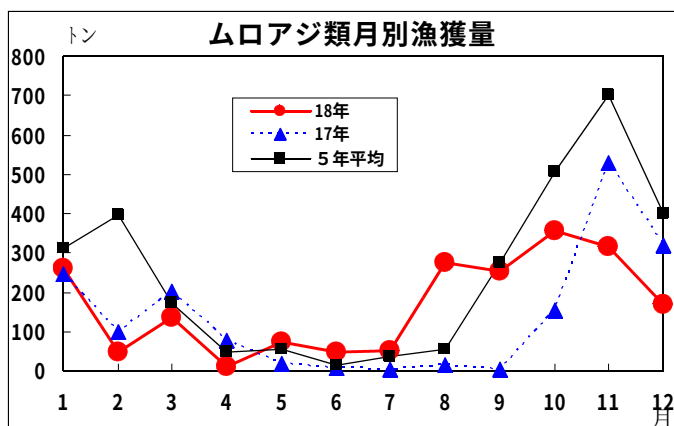


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

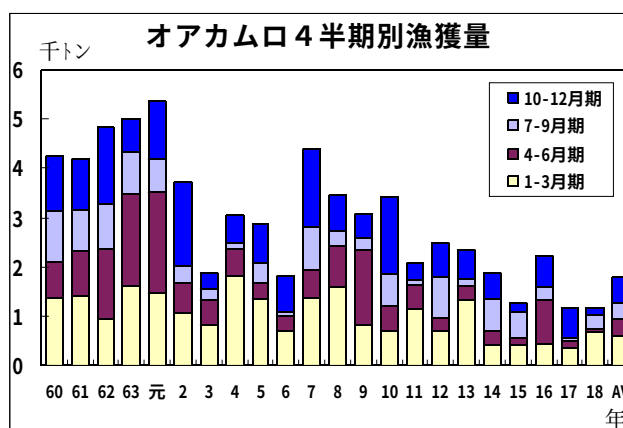
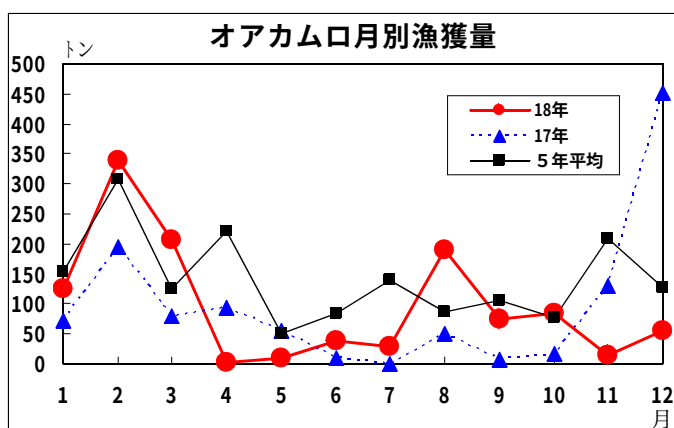


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

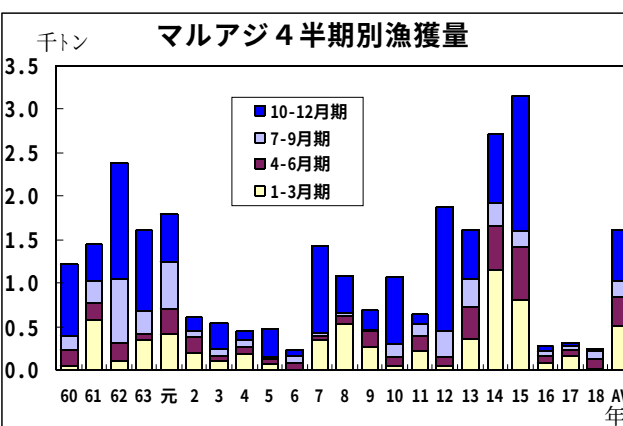
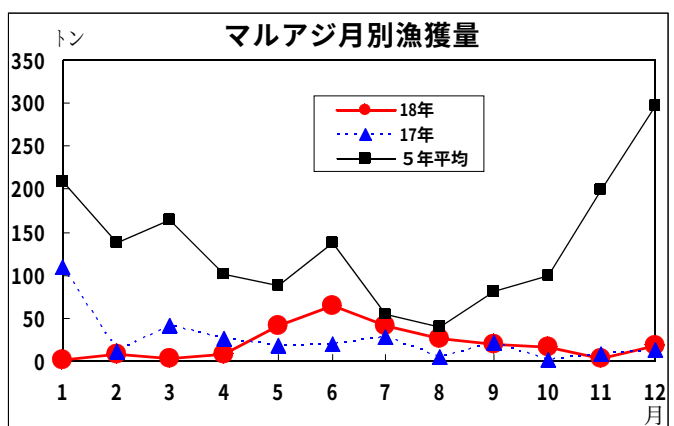


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成13～17年）の平均値，平成18年12月20日までの水揚量を使用。

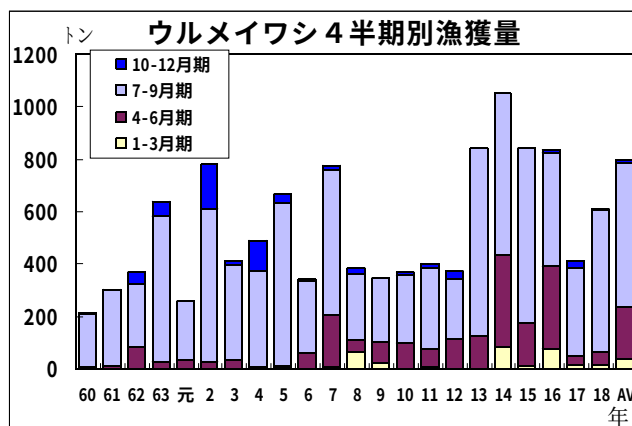
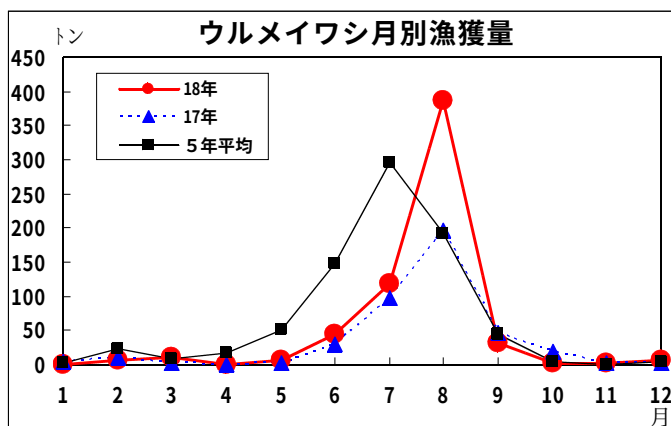


図 ウルメイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

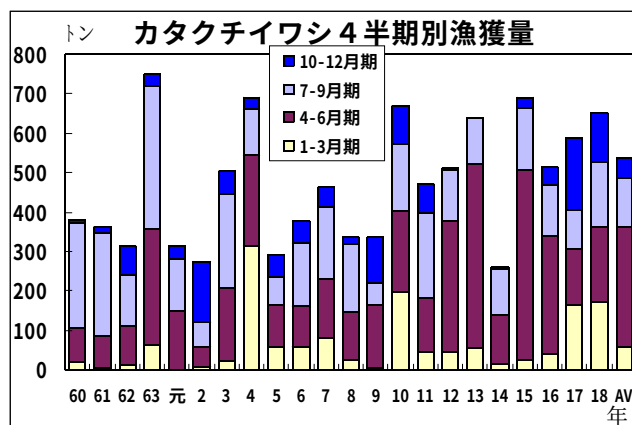
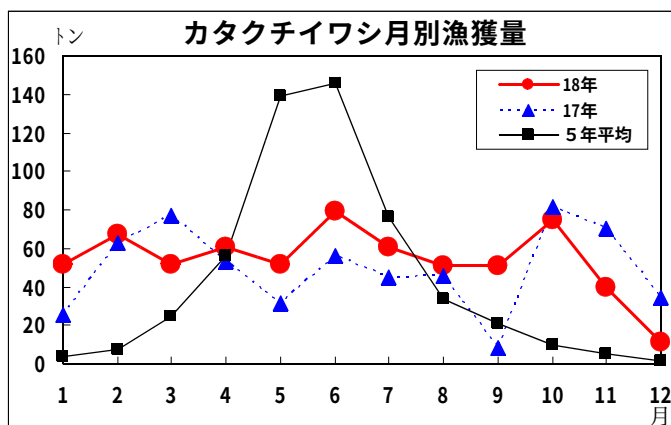


図 カタクチイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

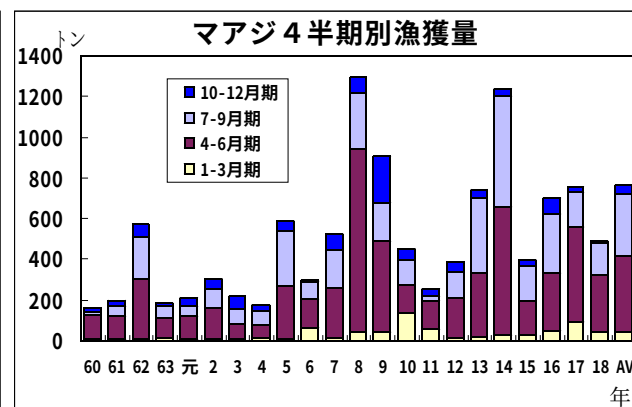
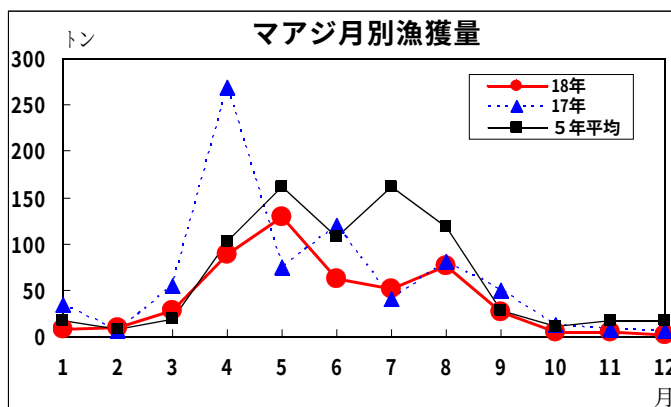


図 マアジ定置網漁獲量変化(内之浦港)

※ 平年値は過去5年（平成13～17年）の平均値，平成18年12月20日までの水揚げ量を使用。

[シラス]

経年経過及び平成18年10～11月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成11年の5,450トン进行ピークに減少傾向を示し、平成14、15年と1,000トンを下回り低調に推移しました。平成16年は3,507トン、平成17年は3,368トンと比較的好調に推移しました。

志布志湾海域では平成12年の1,407トン进行ピークに減少傾向を示し、平成14年は396トンまで減少しましたが、平成15年は842トンまで増加し、平成16年は1,180トン、平成17年は1,147トンと比較的好調に推移しました。

今期の西薩海域では、カタクチシラス主体に273.8トンの水揚げで、前年の26%、平年の52%と前年・平年を大きく下回り、低調に推移しました。志布志湾海域でも、カタクチシラス主体に55.2トンの水揚げで、前年の25%、平年の27%となり、10月以降は低調に推移しました。

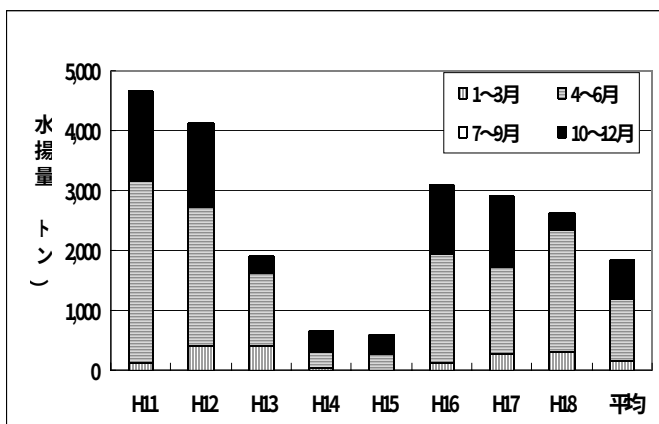
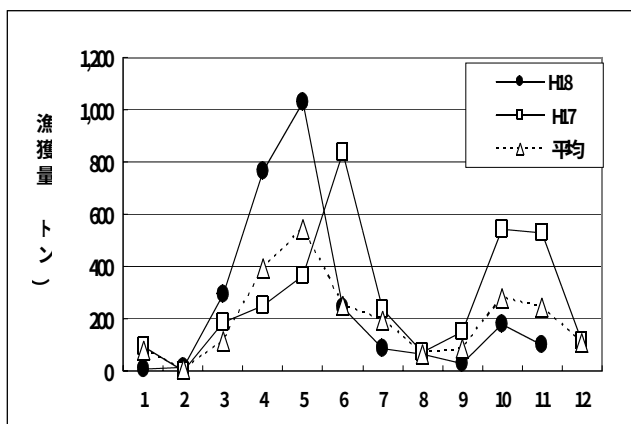


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

※平年値は過去5年(平成13～17年)の平均値、平成18年11月までの水揚げ量を使用。

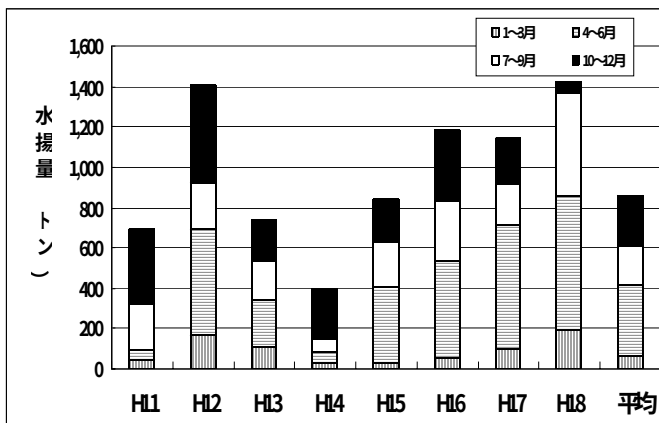
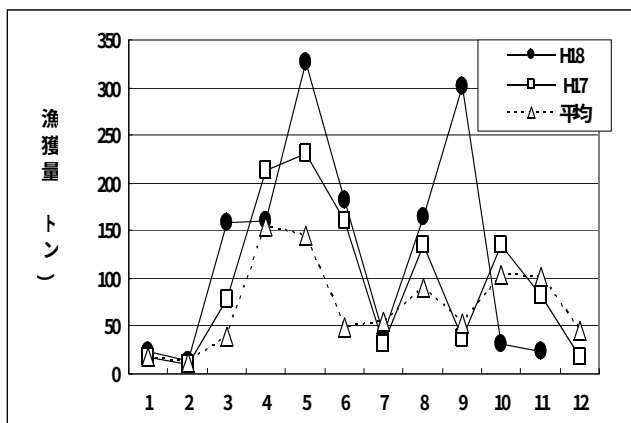


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去5年(平成13～17年)の平均値、平成18年5月までの水揚げ量を使用。